

科目区分：総合科学科目

授業科目名	平和講座					学期	曜日	校時
英語名	On the Peace							
オーガナイザー名	舟越 耿一	単位数	2単位	必修 選択	選択	前期 後期 後期	金曜日 火曜日 木曜日	4校時 3校時 4校時
授 業 担 当 教 官								
舟越 耿一、谷川 昌幸、三根 真理子、高實 康稔、生野 正剛、富塚 明、藤澤 秀雄、岩松 繁俊、葛西よう子								
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法								
<p>この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身勤労令などによって動員された若き男女が航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。本講座はその決意を受け継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものです。</p>								
テ キ ス ト 、 教 材 等								
教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布し、またビデオやスライドなどを利用して講義の理解を深めるのに役立てる。								
対象学生	成績評価の方法					オーガナイザー研究室		
全学部	課題レポート 50%と授業への参加状況 50%を考慮して行う。							
授 業 計 画								
授業内容は次のとおり。 授業は各クラスとも5名の講師によって分担して行われる。								
Aクラス			Bクラス			Cクラス		
前期金曜日	校時		後期火曜日	校時		後期木曜日	校時	
4月16日	藤澤 秀雄		10月 5日	藤澤 秀雄		10月 7日	藤澤 秀雄	
4月23日	葛西よう子		10月12日	谷川 昌幸		10月14日	藤澤 秀雄	
4月30日	葛西よう子		10月19日	谷川 昌幸		10月21日	葛西よう子	
5月 7日	葛西よう子		10月26日	高實 康稔		10月28日	葛西よう子	
5月14日	葛西よう子		11月 2日	高實 康稔		11月4日	藤澤 秀雄	
5月21日	谷川 昌幸		11月 9日	藤澤 秀雄		11月11日	藤澤 秀雄	
5月28日	谷川 昌幸		11月16日	藤澤 秀雄		11月18日	三根真理子	
6月 4日	岩松 繁俊		11月30日	葛西よう子		11月25日	三根真理子	
6月11日	岩松 繁俊		12月 7日	葛西よう子		12月2日	岩松 繁俊	
6月18日	岩松 繁俊		12月14日	藤澤 秀雄		12月9日	岩松 繁俊	
6月25日	舟越 耿一		12月21日	富塚 明		12月16日	岩松 繁俊	
7月 2日	舟越 耿一		1月 11日	富塚 明		1月13日	生野 正剛	
7月 9日	舟越 耿一		1月 18日	富塚 明		1月20日	生野 正剛	
7月16日	藤澤 秀雄		1月 25日	藤澤 秀雄		1月27日	藤澤 秀雄	

次項へ続く

授 業 計 画

講 師 名 講 義 題 目

舟越 耿一 長崎および文教キャンパスの「二つの顔」
「原爆観の相克」をどうやって乗り越えるかー
「イラク戦争」と「朝鮮有事」
暴力をしずめ、報復の連鎖を絶つことばを求めて

谷川 昌幸 積極的平和の構築
途上国の構造的暴力と紛争
紛争予防としての開発予防
紛争の平和的解決と再発予防

三根真理子 長崎原爆と医科大学
原爆直後の調査
被爆者の健康管理

高實 康稔 朝鮮人被爆者と日本の責任

生野 正剛 外国人労働者の人権

冨塚 明 長崎原爆被害の実相
核兵器をめぐる諸問題
プッシュ戦略と「対テロ戦争」
長崎県の軍事基地

藤澤 秀雄 開講にあたって
課題レポート「戦争体験の聞き取り」について
ビデオの上映とその解説 - 日本の戦争、アメリカの戦争、その他

岩松 繁俊 アメリカ合衆国の日本の都市への原爆投下の目的、
ソビエト社会主義共和国連邦（現ロシア）の対日参戦と日本の無条件降伏、
天皇制問題、日本の戦争責任とアメリカの戦争責任
原爆と原発との関係、
被爆国日本の原発推進政策
核による人類破滅の危機、
ラッセル・アインシュタイン宣言、
反核・非核の運動

葛西よう子 戦争と女性
戦争被害者としての女性
- 慰安婦、従軍看護婦、勤労働員、中国よりの引き揚げ、
戦争未亡人と出征中の妻（2回にわけて実施する予定）
戦争加害者としての女性
- 愛国、国防婦人会における戦争協力、
参政権運動をたたかっている婦人達の国家意識と戦争協力
戦争遂行のための国家の女性観
- 第2次世界大戦～コソボ、アフガニスタンまで
ジェンダーの視点から戦争や国家を考える